

---

# 春と冬と河童と

ちほ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

春と冬と河童と

### 【Nコード】

N5212C

### 【作者名】

ちほ

### 【あらすじ】

友達とけんかして走りだしたら草原にきてしまったゆりは、大きな穴を見つける。なぜかその穴に入りたくなって…？

気がついたら草原にいた。今は『春』だ。空には青空があり、雲も少しづつ風に乗りながら動いていた。木はあるけど木の実がない。確かさつき、友達の《レイラ》ともめあいになって、走りだしていつのまにかこんなところにいた。

…ここはどこ…？

不思議な穴があった。大人が一人すっぽり入れそうな大きさだった。なぜだろう。ワケは分からないが入りたいと思った…。

穴に入ってみた。私の名前は《ゆり》。穴の中にはなんと…河童がいた！！子供の河童から大人の河童まで！数は…きつと五十はいつていたに違いない…。

ゆりは上に出ようとした…が、出口が上にありすぎてどうしても届かない。

ゆりが考え事をしていると

「もし？そなたは人間かね？私は河童大王と申します。」

「そうです。ここから早く出たいのですが、方法はありませんか？」

「ありますよ。三つの宝をとってくればいいのです。一つ目は黒く光る丸いもの。二つ目は青く光る楕円形のもの。三つ目は銀色に光る石じゃ。とりにいくか？」

「もちろんやります！」

「入り口まで案内しようかね。ホッホッホ…。」

暗！暗いぜ河童大王！って内心思ってしまう…。

「懐中電灯はもってるし？しゃーない、歩くか。」

？ゆりは見つけた！『銀色に光る石』を！

「よっしゃー！あつとふつたっ〜。」

ゆりはあるいた。なんか長いこと歩いている気がする。…？別れ道だ！とりあえず全部右に曲がろう。

カツツカツツカツツ…。ピタツ。…？

「『黒く光る楕円形』の宝だ！ってことは、今きた道を戻ってあの別れ道の左側を行ってみれば…。」

カツツカツツカツツ…。ピタツ。…！

「見つけたー！青い奴！帰れるくくく！」

ゆりはうきうきしながら歩いていた。

もう十分はたつたであろう。あれ？道がおかしい。と思っていたその時…大きな鏡が目の前に…！

「あれ？あたしが映ってる…。しかもあの草原で！」その瞬間、ヒュンとゆりは飛ばされた。

「いったー！腰打ったー」

「人間、おかえり。宝は見つかったか？」

「河童大王！まあ、なんとかね…。」

「よくやった。では、この宝をつかって…」

ポウ…。ゆりの体が青く光った。と同時に宙に浮いた。

ドサツ。

戻った世界はいつのまにか冬になっていた。

「寒ツ…。」

なんだったのだろう、あの体験は。河童とか、存在がありえないけど今のあたしとなっちゃあ！河童だろうが、恐竜だろうが！友達にでもなんにでもなつてやるさ！あたしは…心の強い人間なんだからね！！！！

（後書き）

この物語を読んできた皆様。どうだったでしょうか。まあ結果的にはゆりとレイラは仲直りします。実際、河童は私も見てみたいですね。どんな顔をしているのでしょうか。かなり見物ですよね。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5212c/>

---

春と冬と河童と

2011年1月9日07時20分発行